

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00384

研究課題名（和文）ディアスポラの文学 サン＝ドマングからアメリカへ

研究課題名（英文）American Literature of the Saint-Domingue Diaspora

研究代表者

庄司 宏子（Shoji, Hiroko）

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：50272472

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：最近の文学研究の潮流として、文学を国民国家の単位ではなく、世界文学の視野から捉える動きがある。世界文学の観点からの文学の見直しは、その文学が描いている現実や歴史的経緯、登場人物の描写がひとつの国の射程に収まらないようなディアスポラの文学において有効である。19世紀末のアメリカ建国期において奴隷反乱の難を逃れてサン＝ドマング（現ハイチ）から渡ってきたディアスポラ移民の存在がアメリカ社会のなかでどのような文化的創出をもたらしたのか、その文学的表象から解明を試みた。またディアスポラ文学としてアフリカの現代アメリカ文学のガーナ系作家であるナナ・クワメ・アジェイ＝ブレニヤールによる文学も取り上げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意味は、従来の国民国家的な文学研究によって忘却ないし抑圧されて形をとどめないディアスポラ集団の記憶を回復することである。とりわけハイチ出身の人類学者ミシェル＝ロルフ・トルイヨが言うように、サン＝ドマング（ハイチ）の歴史はヨーロッパ中心の歴史のなかで「思考されないもの」として「非・事実」とされてきた。本研究はアメリカ文学研究を、アメリカとカリブ海地域とのあいだで繰り広げられた人と情報の移動の交渉史において捉え、アメリカの文学を多言語的なカリブ海世界との関わりから捉え直すものである。そのことにより、アメリカ中心の一国主義的ではないグローバルな視点から文学・文化研究を開くことにある。

研究成果の概要（英文）：One of the recent trends in literary studies is to view literature not as a unit of nation-states, but from the perspective of world literature. The literary study from the perspective of world literature is especially useful for diaspora literature, which depicts realities, historical circumstances, and characters that do not fit within the scope of a nation-state. The presence of diaspora immigrants from Saint-Domingue (now Haiti) who escaped the difficulties of the slave revolt in the late nineteenth century had a significant impact on American literature. This study attempts to elucidate what kind of cultural creation the existence of immigrants from Saint-Domingue brought about in the founding period of the United States through their literary representations. The study also examined the literature of Nana Kwame Adjei-Brenyah, a Ghanaian-American writer, as diaspora literature.

研究分野：アメリカ文学・文化研究

キーワード：ディアスポラ文学 サン＝ドマング

1. 研究開始当初の背景

本研究当初の背景は、アメリカ建国期の作家チャールズ・ブロックデン・ブラウンの小説『アーサー・マーヴィン』(1799-1800年)から1840年代から1850年代のアメリカ・ルネサンスの中心的作家ナサニエル・ホーソーン、エドガー・アラン・ポーの小説を読解するなかで、その人物描写のなかにカリブ海の旧フランス植民地のサン＝ドマング(1804年に黒人共和国として独立するハイチ)との関わりや、サン＝ドマングから逃れてアメリカに移住したディアスポラ移民の影響があることに関心を持ったことによる。その関心から、1791年に始まるサン＝ドマングに実際に旅行しその経験を小説として記したレオノーラ・サンセイの『秘密の歴史——サン＝ドマングの恐怖』(1808年にフィラデルフィアで出版される)やロバート・C・サンズによるアメリカ初の吸血鬼を描く小説『黒い吸血鬼——サント・ドミンゴの伝説』(1819年出版)を読解・分析して論文を執筆した。建国期から19世紀半ばのアメリカ社会におけるサン＝ドマングからのディアスポラ移民の存在がアメリカに及ぼした影響、またアメリカの文学的想像力にどのようにその刻印が見られるのか、サン＝ドマングとアメリカとの歴史的・文化的交渉を研究する着想に至った。

2. 研究の目的

本研究は、21世紀の現在グローバリゼーションのもとでの人や情報の移動は今に始まったことではなく、15世紀からの大航海時代がその幕開けであり、18世紀末から始まる大西洋独立革命の時代はとりわけ顕著なグローバリゼーションの時代であると考え。その様相はこの時代の文学のなかに刻印されている。1791年に始まるサン＝ドマングにおける奴隷反乱と1804年の世界初の黒人共和国ハイチの誕生は大西洋独立革命の一環であり、その影響はサン＝ドマングからフィラデルフィアやニューオリンズへのディアスポラ移民の到来や、ジョージ・ワシントンからトマス・ジェファソンに至るまでのサン＝ドマングへの対応など、社会の各方面に至った。しかし、従来の国民国家単位の文学の捉え方ではこうしたサン＝ドマングからのディアスポラ移民のアメリカ社会や文学への影響を十分に捉えることができない。アメリカ合衆国の一国的な視点からではない、アメリカと環カリブ海世界との交渉というトランスナショナルな視点からの分析が必要であり、本研究はアメリカ中心ではないグローバルな視点からの文学・文化研究を目指した。

3. 研究の方法

本研究は、これまでアメリカ文学でほとんど研究されることがなかった19世紀末の奴隷反乱の擾乱のさなかサン＝ドマングに渡航したフィラデルフィア出身の女性で、のちにその体験を小説に記したレオノーラ・サンセイの小説を読み解くことを目的とした。またディアスポラ文学と

して、現代アメリカ文学では20世紀に移民してきた作家、また両親が移民であった作家による小説が新しい潮流をもたらしており、本研究ではガーナからの移民を両親にもつナナ・クワメ・アジェイ＝ブレニヤーに注目した。両親を通じたディアスポラの記憶と、現代アメリカにおける構造的な人種主義を描くその文学は鮮烈な文学を生み出している。

4. 研究成果

本研究課題の成果としては、論文として「ナナ・クワメ・アジェイ＝ブレニヤーの『フライデー・ブラック』にみる現代アメリカの人種主義と暴力」、「Confederate Flag に関する一考察: “heritage” か “hate” を超えた思考に向けて」がある。前者は現代アメリカのディアスポラ文学への関心からガーナ系の現代アメリカ作家ナナ・クワメ・アジェイ＝ブレニヤーの文学を、後者はアメリカ南部を現在はグローバル・サウスの要素から捉える文学・文化研究が登場するなかで、アメリカ南部の南部性を象徴するものとして南北戦争時の南軍旗 (confederate flag) のシンボルとしての意味を論じたものである。本研究遂行中に、文学を従来の一国的ないし国民国家的な捉え方ではなく、「世界文学」として読み解く流れが日本の文学研究にも浸透し、その影響は従来のアメリカ文学、イギリス文学というような国家単位の枠を超えて語圏ネットワーク的な研究傾向に顕著となった。現代のグローバル資本主義の嚆矢たるプランテーション資本主義は奴隷制度を伴い、その影響はエネルギー覇権をめぐる戦争から地球規模の環境破壊、気候変動におよぶ。そのなかであらたな難民・移民が生まれディアスポラが形成され、その記憶は文学に刻印される。そうしたディアスポラ文学の研究に関しては、国家や言語の枠を超えて異なる国家や語圏を通じた対話と考察が重要であり、今後の文学・文化研究が向かう方向性であることが今回の研究を通じての確信である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 庄司宏子	4. 巻 第57号
2. 論文標題 ナナ・クワメ・アジェイ=ブレニヤの『フライデー・ブラック』にみる現代アメリカの人種主義と暴力	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 成蹊大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15018/00001274	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 庄司宏子	4. 巻 第27号
2. 論文標題 Confederate Flagに関する一考察：“heritage”か“hate”を超えた議論に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 成蹊英語英文学研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 庄司宏子	4. 巻 57
2. 論文標題 ナナ・クワメ・アジェイ=ブレニヤの『フライデー・ブラック』にみる現代アメリカの人種主義と暴力	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 成蹊大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 庄司宏子
2. 発表標題 Colson WhiteheadのNeo-Slave Narrative
3. 学会等名 成蹊大学アジア太平洋研究センター共同研究プロジェクト
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 庄司宏子
2. 発表標題 コルソン・ホワイトヘッドの『地下鉄道』について Post-Racial時代のアメリカ文学
3. 学会等名 Berkeley Japanese Academic Network (BJAN) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroko Shoji
2. 発表標題 "Post-Diasporic Identity and Trans-American Historiography in Michelle Cliff's Free Enterprise"
3. 学会等名 HSSA Symposium 2019 (at UC Berkeley) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroko Shoji
2. 発表標題 "The Specter of Haiti: Figuring Contagious Blood in Edgar Allan Poe's 'The Masque of the Red Death'"
3. 学会等名 International Poe and Hawthorne Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroko Shoji
2. 発表標題 "'Le gens inconnu' as a Strategy of Resistance -- Post-Diasporic Identity in Michelle Cliff's Free Enterprise"
3. 学会等名 Caribbean Women (Post) Diaspora: African/Caribbean Interconnections (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 庄司宏子（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 340
3. 書名 国民国家と文学	

1. 著者名 庄司宏子（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 359
3. 書名 Facets of English 英語英米文学研究の現在	

1. 著者名 庄司宏子（共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 音羽書房鶴見書店	5. 総ページ数 246
3. 書名 『憑依する英語圏テキスト 亡霊・血・まぼろし』	

1. 著者名 庄司宏子（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 359
3. 書名 『Facets of English 英語英米文学研究の現在 』	

1. 著者名 庄司宏子 (編著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 351
3. 書名 国民国家と文学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------